

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	外国語		
担当教員	金本 直登		
学年	2年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	公務員試験に向けて英語の基礎を修得する。		
授業計画	1. 英語① 2. 英語② 3. 英語③ 4. 英語④ 5. 英語⑤ 6. 英語⑥ 7. 英語⑦ 8. まとめ 期末試験		
教科書	速読英単語(風見寛:Z会) よくわかる数的推理(田辺勉:実務教育出版) よくわかる判断推理(田辺勉:実務教育出版)		
参考書	配布資料		
評価方法	期末試験の得点結果を主体に、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生生活の指針」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	基礎分野特論		
担当教員	金本 直登		
学年	2年	学科	救急救命
単位数	26単位	時間数	165(135)時間
学習目標	公務員採用試験及び就職試験に向けた基礎力の習得を目標とする。		
授業計画	16. 基礎分野1 17. 基礎分野2 18. 基礎分野3 19. 基礎分野4 20. 基礎分野5 21. 基礎分野6 22. 基礎分野7 23. 基礎分野8 24. 基礎分野9 25. 基礎分野10 26. 基礎分野11 27. 基礎分野12 28. 基礎分野13 29. 基礎分野14 30. 基礎分野15 31. 基礎分野16 32. 基礎分野17 33. 基礎分野18 34. 基礎分野19 35. 基礎分野20 36. 基礎分野21 37. 基礎分野22 38. 基礎分野23 39. 基礎分野24 40. 基礎分野25 41. 基礎分野26 42. 基礎分野27 43. 基礎分野28 44. 基礎分野29 45. 基礎分野30 46. 基礎分野31 47. 基礎分野32 48. 基礎分野33 49. 基礎分野34 50. 基礎分野35 51. 基礎分野36 52. 基礎分野37 53. 基礎分野38 54. 基礎分野39 55. 基礎分野40 56. 基礎分野41 57. 基礎分野42 58. 基礎分野43 59. 基礎分野44 60. 基礎分野45 61. 基礎分野46 62. 基礎分野47 63. 基礎分野48 64. 基礎分野49 65. 基礎分野50 66. 基礎分野51 67. 基礎分野52 68. 基礎分野53 69. 基礎分野54 70. 基礎分野55 71. 基礎分野56 72. 基礎分野57 73. 基礎分野58 74. 基礎分野59 75. まとめ 期末試験		
教科書	速読英単語(風見寛:Z会) よくわかる数的推理(田辺勉:実務教育出版) よくわかる判断推理(田辺勉:実務教育出版)		
参考書	資料		
評価方法	期末試験及び単元テストの結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	注:授業中の、居眠り・私語・私服等の服装の乱れ等ある場合も評価の対象とする。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	疾病救急医学特論Ⅰ(2)		
担当教員	平木 哲也		
学年	2年	学科	救急救命
単位数	2単位	時間数	30(15)時間
学習目標	救急救命士に必要な各種疾患における病態、症候、診断、救急処置等について理解を深め臨床実習に備える。		
授業計画	1. 筋・骨格系疾患、皮膚系疾患 620-628 2. 眼・耳・鼻の疾患 629-633 3. 感染症 634-643 4. 小児に特有な疾患 644-653 5. 高齢者に特有な疾患 654-660 6. 妊娠・分娩と救急疾患 661-675 7. 精神障害 676-685 8 まとめと期末試験		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)620-685		
参考書			
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生生活の指針」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	外傷救急医学Ⅲ		
担当教員	松村 敬則		
学年	2年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	特殊な外傷領域における受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解する。 救急救命士に必要な観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に修得する。		
授業計画	1. 熱傷・化学損傷① 757-760 2. 熱傷・化学損傷② 760-764 3. 熱傷・化学損傷③ 764-768 4. 電撃症・雷撃症 769-774 5. 縊頸・絞頸・刺咬傷 7745-777 6. 外傷救急総論① 7. 外傷救急総論② 8. まとめ 期末試験		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)757-777		
参考書	,		
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	授業中の、居眠り・私語・服装の乱れ等も評価の対象とする。 不適切な態度や髪型、毛染、ピアス、化粧等については認めません。 学校感染症(新型コロナ、インフルエンザ等)以外で体調不良により休学いた場合は原則、欠課扱いとします。 「学生便覧」参照		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	多職種連携演習		
担当教員	曾田 修治		
学年	2年	学科	救急救命
単位数	3単位	時間数	15時間
学習目標	多職種との連携について理解する。 救急救命に関わる職種に関わらずあらゆる職業を理解する。		
授業計画	1. 多職種連携学① 2. 多職種連携学② 3. 多職種連携学③ 4. 多職種連携学④ 5. 多職種連携学⑤ 6. 多職種連携学⑥ 7. 多職種連携学⑦ 8. 多職種連携学⑧		
教科書			
参考書			
評価方法	レポート提出及び＋出席状況・受講態度を総合的に評価する。		
備考	本講は学外授業を主体とするが諸事情により学内授業となる場合がある。 出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	救急救命ゼミナール		
担当教員	曾田 修治		
学年	2年	学科	救急救命
単位数	2単位	時間数	15時間
学習目標	救急救命士の国家試験合格を目指し、専門知識をより深く理解する。		
授業計画	1. 解剖生理学Ⅰ 2. 解剖生理学Ⅱ 3. 救急医学概論 4. 救急病態生理学 5. 救急症候学 6. 疾病救急医学 7. 外傷救急医学 8. 急性中毒学・環境障害		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)		
参考書			
評価方法			
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	シミュレーション実習Ⅱ		
担当教員	草賀 光博 ・ 平木 哲也		
学年	2年	学科	救急救命
単位数	4単位	時間数	215(80)時間
学習目標	救急隊員の基本スキルの再確認及び特定行為スキルを習得する。 救急救命士としての実践的な知識と応用力を修得する。 医療機関の見学を通じて多職種連携について理解する。		
授業計画	69. 救急救命処置 訓練① 70. 救急救命処置 訓練② 71. 救急救命処置 訓練③ 72. 救急救命処置 訓練④ 73. 救急救命処置 訓練⑤ 74. 事例検討会 75. 救急救命処置 訓練⑥ 76. 救急救命処置 訓練⑦ 77. 救急救命処置 訓練⑧ 78. 救急救命処置 訓練⑨ 79. 救急救命処置 訓練⑩ 80. 事例検討会 81. 救急救命処置 訓練⑪ 82. 救急救命処置 訓練⑫ 83. 救急救命処置 訓練⑬ 84. 救急救命処置 訓練⑭ 85. 救急救命処置 訓練⑮ 86. 事例検討会 87. 救急救命処置 訓練⑯ 88. 救急救命処置 訓練⑰ 89. 救急救命処置 訓練⑱ 90. 救急救命処置 訓練⑲ 91. 救急救命処置 訓練⑳ 92. 事例検討会 93. 救急救命処置 訓練㉑ 94. 救急救命処置 訓練㉒ 95. 救急救命処置 訓練㉓ 96. 救急救命処置 訓練㉔ 97. 救急救命処置 訓練㉕ 98. 事例検討会 99. 効果測定① 100. 効果測定② 101. 効果測定③ 102. 効果測定④ 103. 二次救命処置⑪ 104. 二次救命処置⑫ 105. 二次救命処置⑬ 106. 二次救命処置⑭ 107. 二次救命処置⑮ 108. 効果測定 109. 二次救命処置⑯ 110. 二次救命処置⑰ 111. 二次救命処置⑱ 112. 効果測定 113. 効果測定		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)		
参考書			
評価方法	期末試験及び効果測定の結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	補足授業の必要がある場合は、シミュレーション実習Ⅱで行う。 授業中の、居眠り・私語・私服・服装の乱れ等も評価の対象とする。 不適切な服装や髪型、毛染、ピアス、化粧等を認める場合、参加を認めない。原則、欠席1とする。 「学生便覧」参照		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	救急車同乗実習		
担当教員	曾田 修治		
学年	2年	学科	救急救命
単位数	2単位	時間数	90(15)時間
学習目標	学んだ知識・技術及び実習を通じて病院前救護活動の現状について理解を深める。 救急現場及び救急車内で基礎的な活動ができる。		
授業計画	38 臨地実習まとめ① 38 臨地実習まとめ② 40 臨地実習まとめ③ 41 臨地実習まとめ④ 42 臨地実習まとめ⑤ 43 臨地実習成果発表 44 臨地実習成果発表 45 臨地実習成果発表		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版) 救急車同乗実習要領		
参考書			
評価方法	後期にて通年の出席状況、実習態度、実習評価、実習日誌、実習報告会の内容により、総合的に評価する。		
備考	救急車同乗実習要領に違反する場合は実習を中止し、単位は未認定とする。 実習先からの苦情(事後に発覚した苦情も含む)はいかなる理由であれ単位は未認定とする。 感染症の感染拡大及び大規模災害により実習地を変更する場合がある。 詳細は「学生便覧」及び救急車同乗実習要領を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	病院内実習		
担当教員	曾田 修治		
学年	2年	学科	救急救命
単位数	4単位	時間数	190時間
学習目標	修得した知識を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で医療従事者としての自覚と責任感を養う。		
授業計画	実習期間：令和7年9月24日(水)～令和7年10月29日(月) 実習後成果発表3コマ		
教科書	資料(臨地実習要領) 改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)271-275		
参考書			
評価方法	出席状況・受講態度・実習指導者からの評価・実習結果報告書・症例報告会での積極的な発表を主体に総合的に評価する。		
備考	臨地実習要領に反した場合及び実習先からのクレームが発生した場合は、いかなる理由であろうとも実習の中断または未履修とする。 症例報告会での発表内容に盗作等が発覚した場合は、未履修とする。 あきらかな染毛の場合は実習を受けられない。		